



おいしさのみなもと

FEED ONE

2023年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2023年2月8日

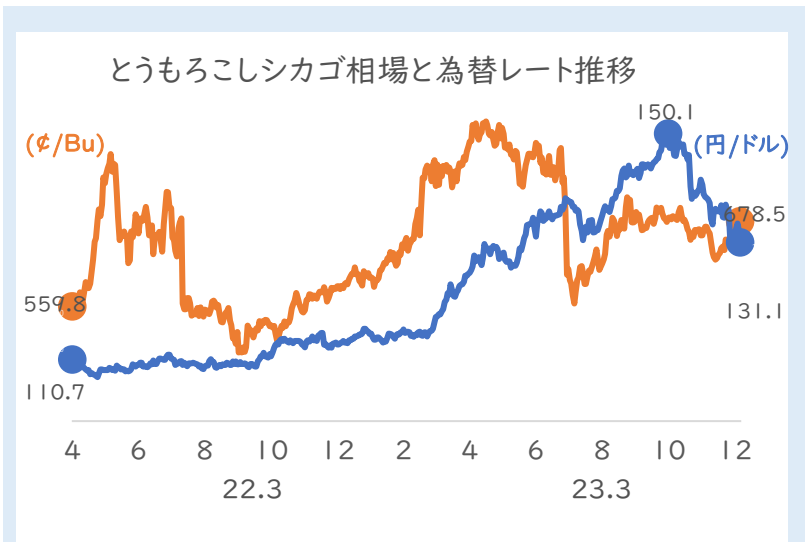
フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード:2060

1. 輸入原料における原価への影響

(状況) 主原料のとうもろこし_シカゴ相場は一時軟化も高値を維持、
為替相場は10月後半まで円安が進行、
とうもろこし輸入価格は前年同期比で約5割上昇

(影響) 大幅増収だが、売上総利益は減少 → マイナス影響は **大**

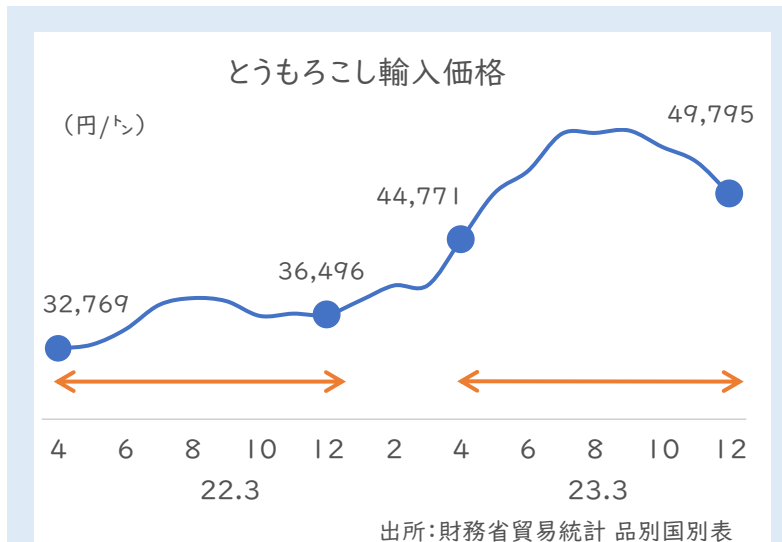


- とうもろこしシカゴ相場は一時軟化も、**依然高値を維持**
- 為替レートは2022年10月に**32年ぶりの150円/ドルに**、その後、円高方向へ

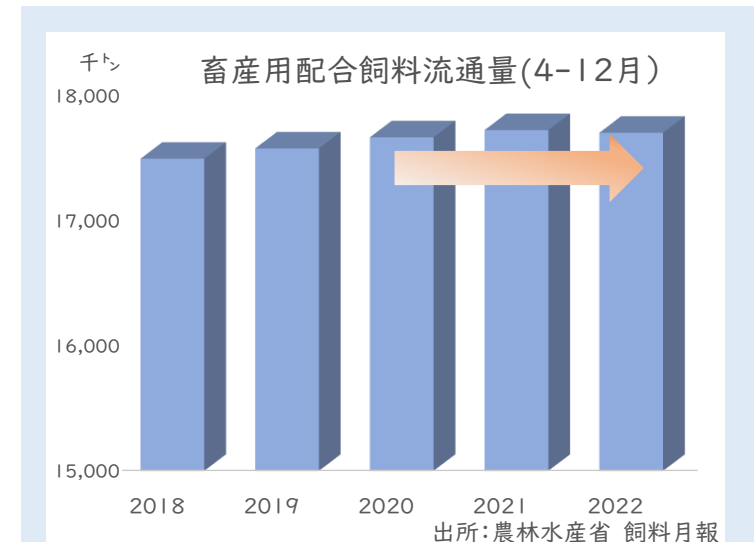
2. 新型コロナ・家畜伝染病における飼料流通量への影響

(状況) 外食産業は回復傾向で、畜産物全般の消費も前年より回復
豚熱はワクチン接種で鎮静化も、限定的に発生し回復に遅れ
鳥インフルエンザは前年を上回る感染拡大、今後更なる拡大懸念

(影響) 配合飼料流通量は概ね横ばいで推移 → マイナス影響は **小**



- 主原料 とうもろこし輸入価格(4-12月)は **前年同期比46.4% 上昇**



- 畜産用配合飼料流通量は **概ね横ばい**で推移

2023年3月期 第3四半期 決算概要



FEED ONE

畜産・水産飼料の販売価格上昇により増収も、売上原価・販管費の増加により大幅減益

(百万円, %)

	2022.3期 3Q	2023.3期 3Q	前年同期比
売上高	182,757	228,746	+25.2
売上原価	164,902	211,993	+28.6
販管費	13,769	15,996	+16.2
営業利益	4,085	756	▲81.5
経常利益	4,763	1,039	▲78.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,309	636	▲80.8

前年同期比

● 売上高

畜産・水産飼料の販売数量増加および販売価格の値上げにより増収

● 売上原価

円安進行により主原料であるとうもろこし価格は高値を維持し、エネルギー関連費用も増加

● 販管費

配合飼料価格安定制度の積立金や物流費の増加

2023年3月期 第3四半期 セグメントの状況



FEED ONE

(百万円, %)

		2022.3期 3Q	2023.3期 3Q		
			増減額	前年同期比	
飼料事業	売上高	151,992	196,552	+ 44,560	+ 29.3
	セグメント利益	5,762	2,616	▲ 3,146	▲ 54.6
食品事業	売上高	28,893	30,321	+ 1,428	+ 4.9
	セグメント利益	▲ 79	▲ 270	▲ 191	—
その他	売上高	1,871	1,872	+ 0	+ 0.0
	セグメント利益	236	201	▲ 35	▲ 14.9

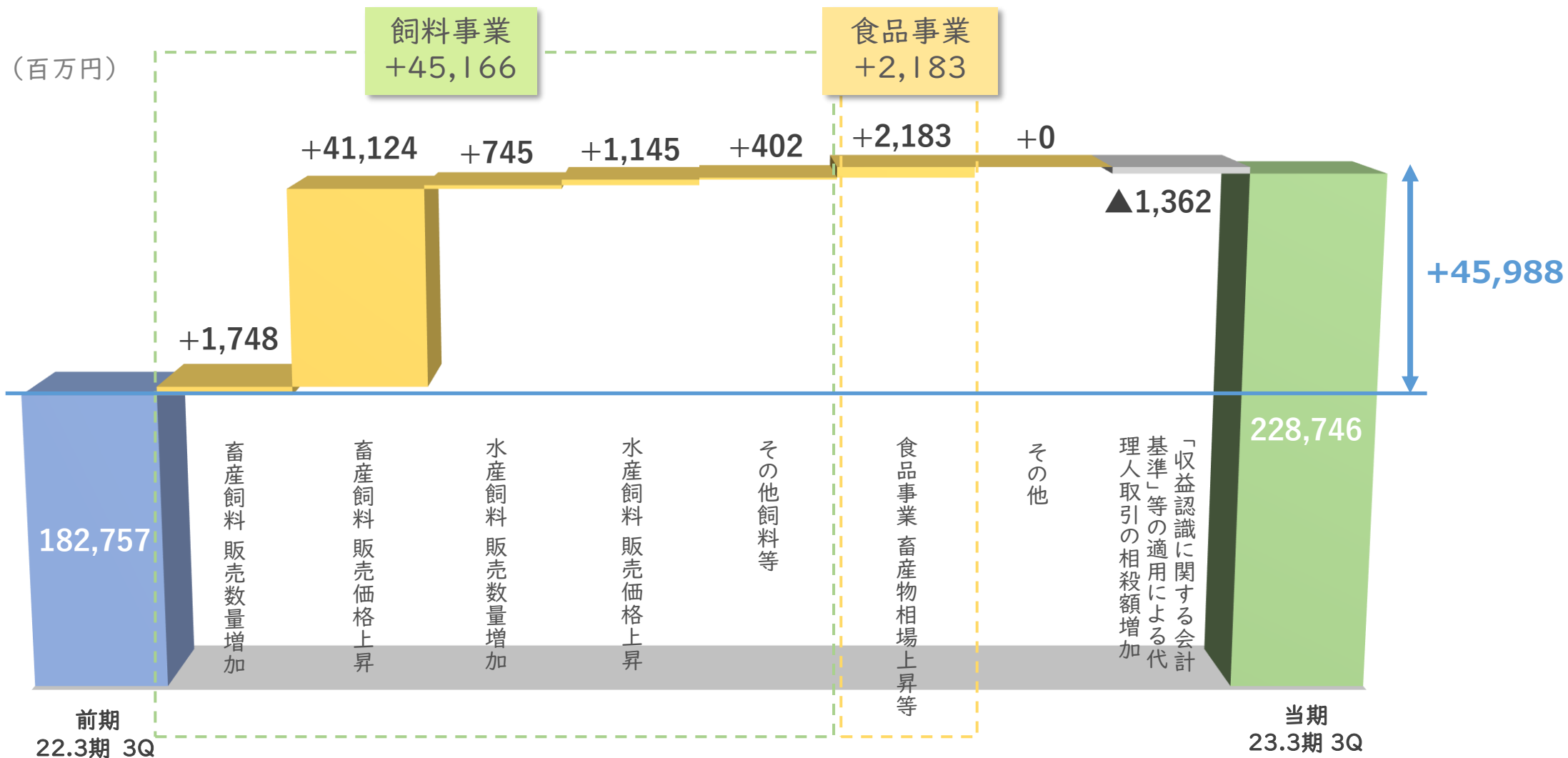
販売数量	2022.3期 3Q	2023.3期 3Q		
		前年同期比	コメント	
畜産飼料	264.4万ト	268.3万ト	+ 1.5%	採卵鶏用+2.4%、ブロイラー用+3%、豚用▲0%、牛用+1.9%
水産飼料	7.6万ト	8.1万ト	+ 6.2%	海水魚用+8%、淡水魚用▲7%

売上高増減要因



FEED ONE

主に畜産飼料の販売価格値上げにより増収

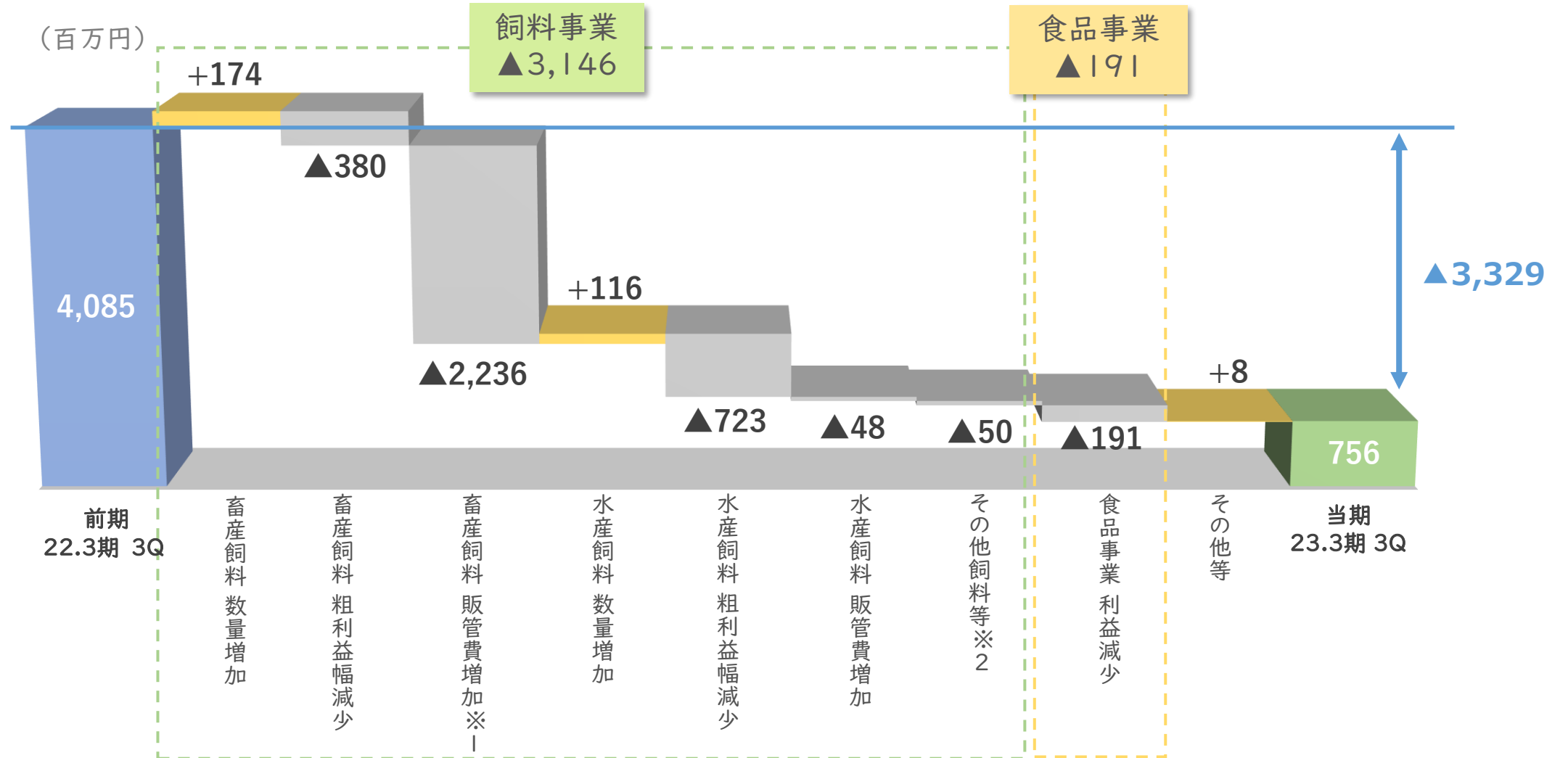


営業利益 増減要因



FEED ONE

主に畜産飼料の配合飼料価格安定制度 積立金増加により減益



※1 配合飼料価格安定制度の積立金増加▲1,881百万円 ※2 知多工場一部閉鎖による割増償却▲22百万円

畜産飼料 販売価格と売上原価推移

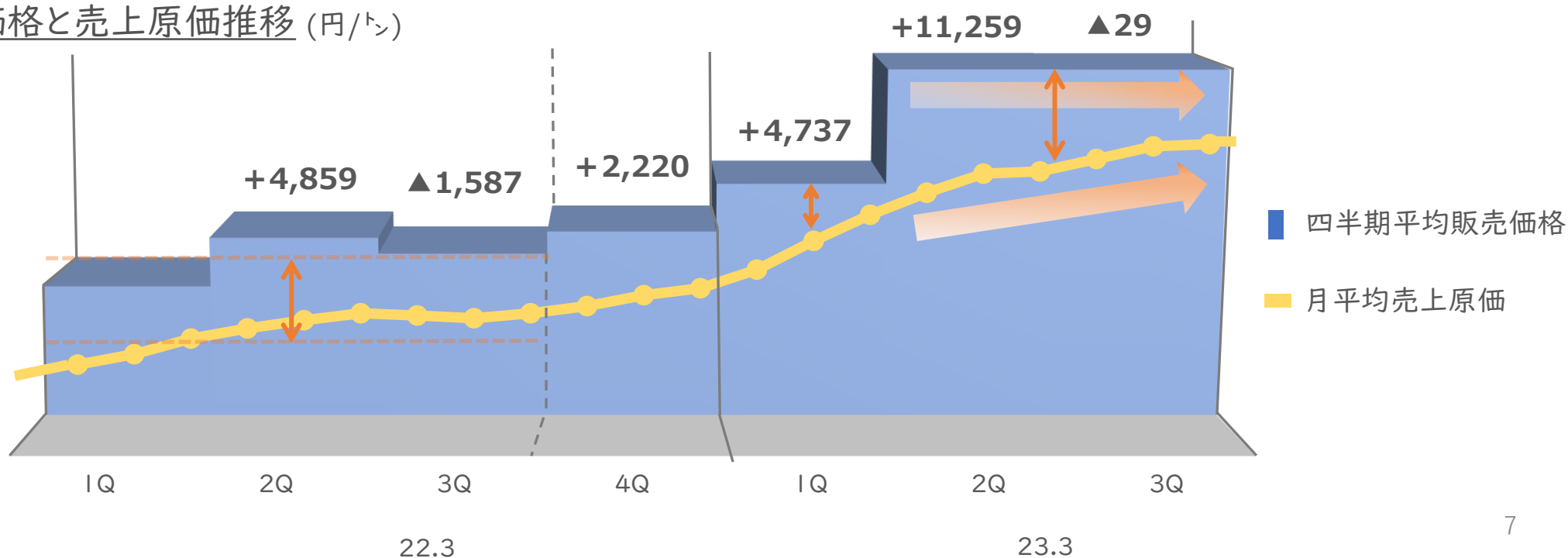


FEED ONE

第3四半期は販売価格は横ばいも、売上原価が増加し、売上総利益が減少

- ▶ 販売価格は原材料価格の変動に合わせて、四半期毎に改定を行う
- ▶ 売上原価における原材料費率は8割強、原材料の5割を輸入とうもろこしが占める

販売価格と売上原価推移 (円/トン)



水産飼料 販売価格と売上原価推移

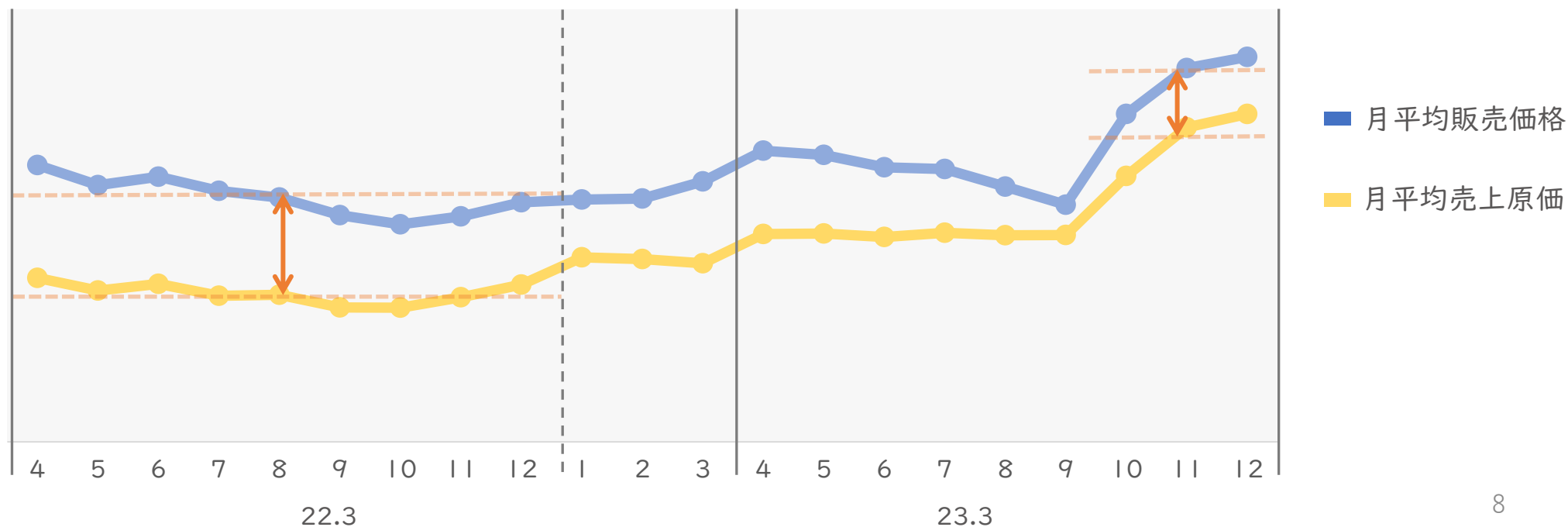


FEED ONE

第3四半期は価格転嫁が進み、売上総利益は改善も、売上原価の増加は続く

- ▶ 売上原価における原材料費率は8割強
- ▶ 原材料の4割強を魚粉が占める
- ▶ 定期的な販売価格の改定は無く、原材料価格の大きな変動等を勘案して、改定を行う

販売価格と売上原価推移 (円/トン)



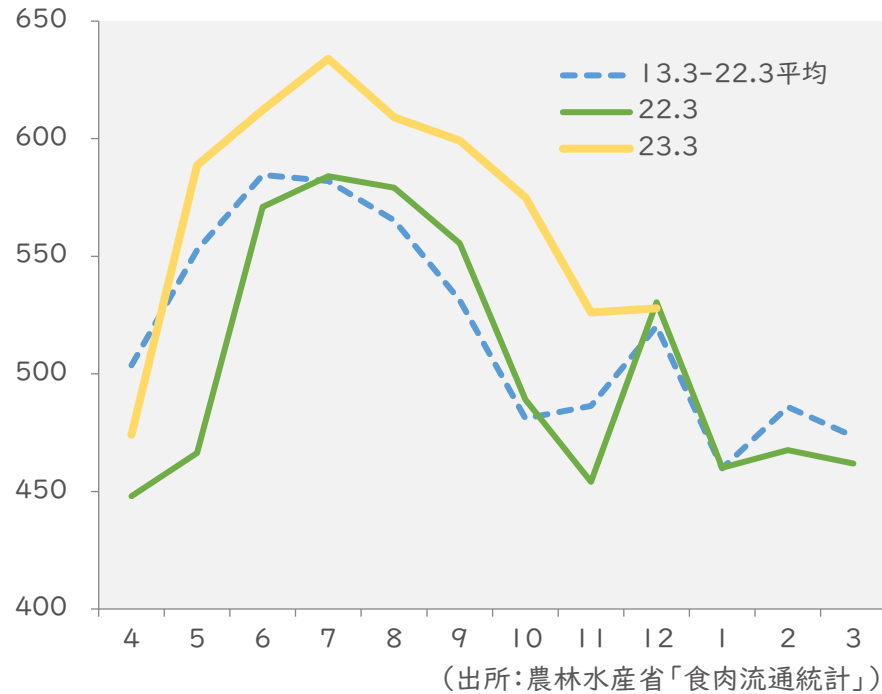
食品事業 畜産物相場の状況

豚枝肉相場 前年を上回るも、12月は前年並みへ

鶏卵相場 9月以降、前年を大きく上回る

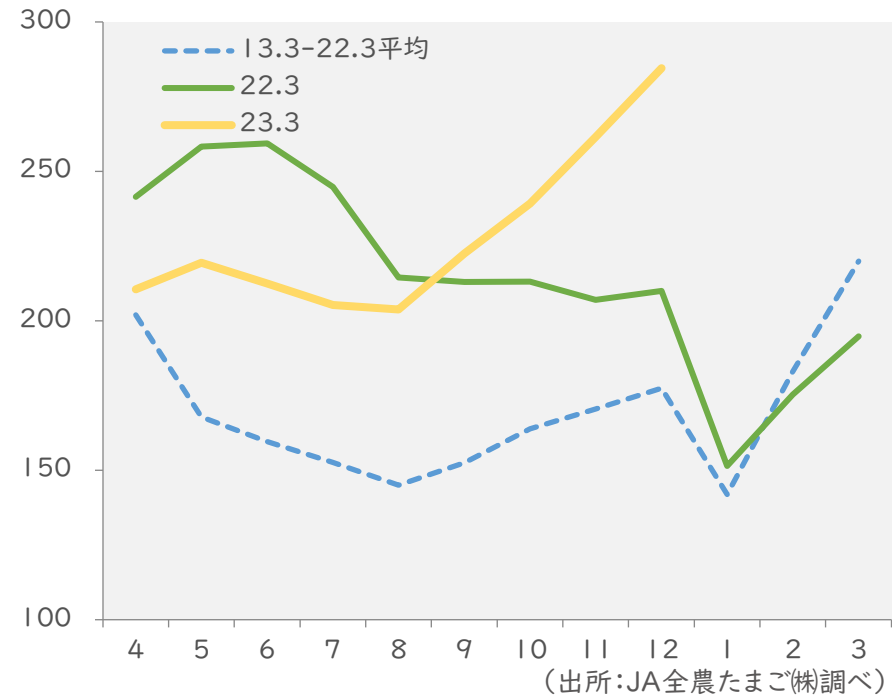
- ▶ 主な取り扱い畜産物は、豚枝肉と鶏卵
- ▶ 相場上昇による仕入れ価格の上昇は、収益悪化要因

豚枝肉卸売価格(3市場・上物) (円/kg・税抜)



▶ 輸入豚価格高騰に伴う代替需要の影響で前年を上回る

鶏卵卸売価格(全農:東京M) (円/kg・税抜)



▶ 鳥インフルエンザの全国的な蔓延により、下期に高値を付ける例年のトレンドに反する異例の相場展開

販管費 と 配合飼料価格安定制度

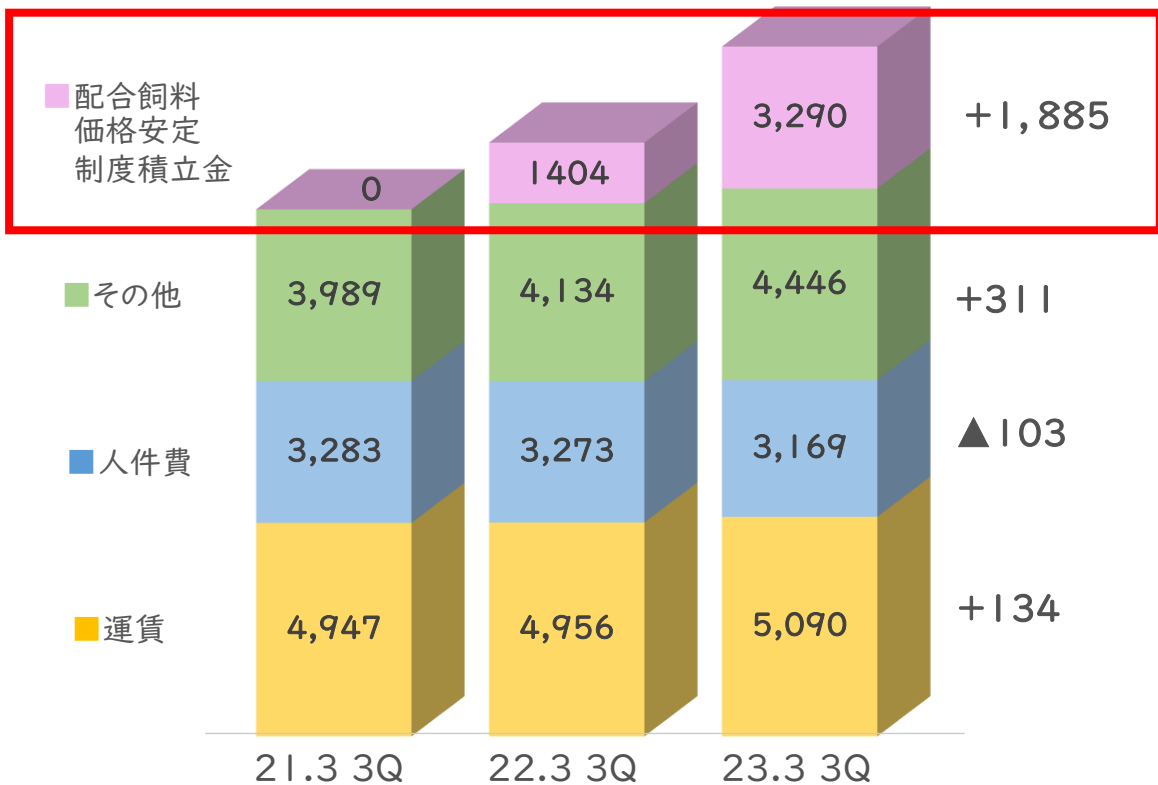


FEED ONE

販管費

- ▶ 配合飼料価格安定制度の積立金増額
- ▶ その他の貸倒引当金繰入額・活動費等の増加

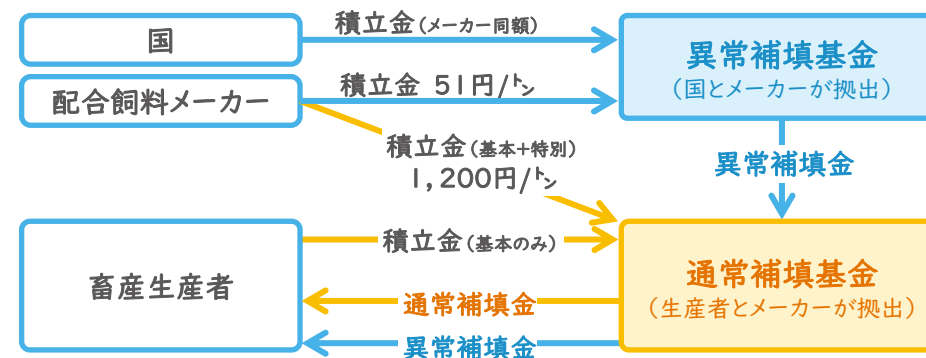
(百万円) (前年同期差)



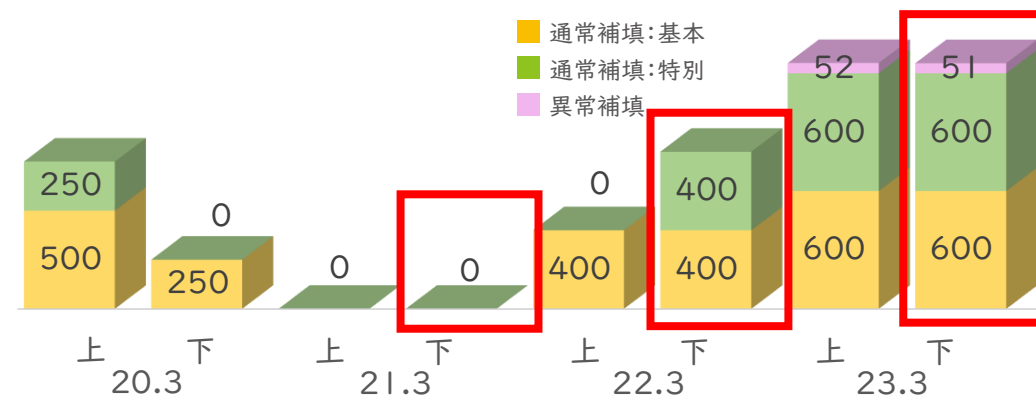
参考資料: 配合飼料価格安定制度

- ▶ 飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和する目的
- ▶ 補填金発動により22.3期から積立金が再開、23.3期は単価増額、更に異常補填積立金が発生

制度の仕組み(例:2023年3月期 下期)



積立金推移(配合飼料メーカー)



四半期ベース 業績推移

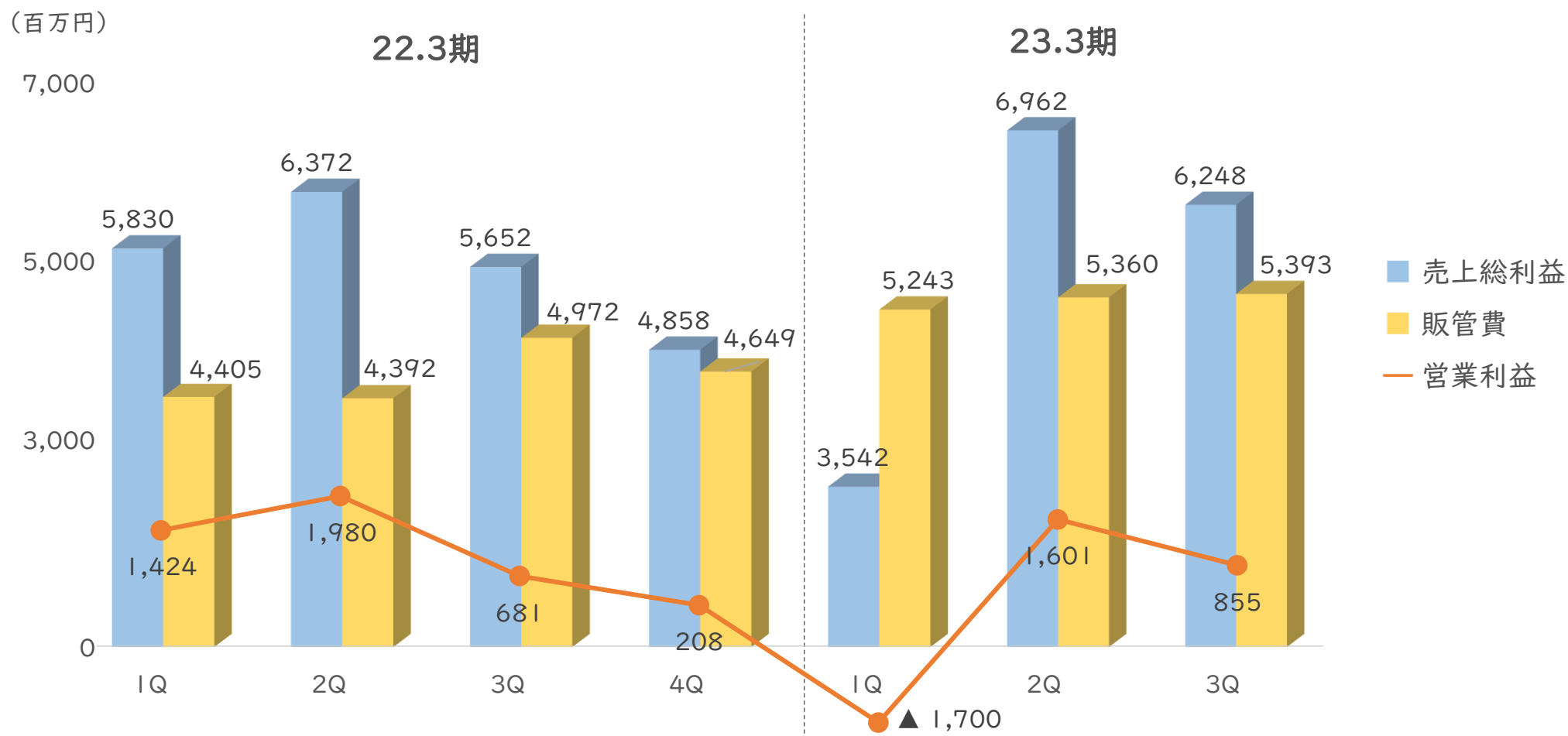


FEED ONE

第1四半期 売上総利益が大きく減少、営業損失を計上

第2四半期 畜産飼料の価格転嫁が進み、売上総利益が大きく増加、営業利益は大きく黒字転換

第3四半期 販売価格・販管費は横ばいながら、売上原価増加により売上総利益・営業利益が縮小





2023年3月期 業績予想

2023年3月期 業績予想

第3四半期で通期業績予想の経常利益を上回ったが、第4四半期の経営環境を鑑みて、通期業績予想は据え置き

(百万円, %)

	2022.3期	2023.3期	
		予想※	前期比
売上高	243,202	305,000	+ 25.4
営業利益	4,293	800	▲ 81.4
経常利益	5,067	1,000	▲ 80.3
親会社株主に帰属する当期純利益	3,659	500	▲ 86.3

※2022年11月8日開示予想

第4四半期の予想概況

- 原材料価格
ドル高円安傾向の一服により価格低下を予想
- 販売価格
競争激化により、原材料価格の低下を上回る売価低下を予想
- 畜産物相場
鳥インフルエンザによる鶏卵価格の高騰



トピックス

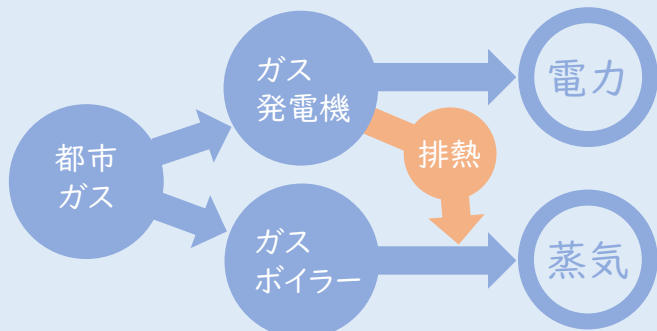
トピックス -ESG/SDGsの取り組み-



●省エネルギー・省CO₂設備の導入

～ガスコージェネレーション～

2022年11月 北九州畜産・北九州水産工場の2工場に
ガスコージェネレーション設備を導入 ⇒ 年間約200トンのCO₂削減見込



発電する際に発生する排熱の一部を有効活用し、蒸気ボイラーの燃焼効率を向上

●横浜マラソンへの協賛とボランティア活動

ボランティア活動を通じ、地域共生の実現と地域社会の発展に貢献



当社グループ会社
味付ゆでたまご

「マジックパール」

ランナーに1万個無償配布



●CDP2022 気候変動プログラム

国際的な非営利団体CDPが毎年実施する企業のサステナビリティ調査に際して、初めて回答を実施

「気候変動プログラム

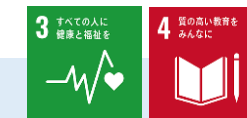
(Climate Change 2022)」において

「B-」スコアを取得



●学生向けキャリア教育支援活動

中学生を対象にSDGs取り組み紹介や職業体験(配合飼料づくりや品質管理業務等)を通じて、学生の皆さまへのキャリア教育を支援





おいしさのみなもと

FEED ONE

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません。

また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛
(ir@feed-one.co.jp)にご連絡ください。